京KYOTIAN I.D.
京のおきばりさん

取材・文／山田涼子　撮影／木村有希（Visual Cafe）

意匠家

吉田亜紀子

YOSHIDA AKIKO

【プロフィール】和歌山県出身。美術短大への進学を機に京都へ移り住み、卒業後はデザイン事務所に就職。イラストレーターの仕事をしながら、着物に魅せられ絵付けの世界に飛び込む。'96年に、手描き友禅作家・難波和夫氏に師事し、女流作家の視点から着物を制作。和テイストの京都発ジーンズなどの製作にも携わる。'08年4月独立、Y's factoryを立ち上げる。

自分を育ててくれた京都に恩返しする気持ちでものづくりを

10年一区切り。今春独立したのは、そんな想いがあってのこと。肩書きは「意匠家」、手描き京友禅を学んできたからこその「衣裳家」という意味も含まれている。とはいえ、手がけているのは着物や帯ばかりではない。Tシャツのデザイン、ジーンズへの絵付け、オブジェやディスプレイ用品のデザイン・制作…玄関の覗き穴のフタのデザインを請け負ったこともある。また、秋口の商品化を目指して、和紙×革のコラボ素材でつくる財布などの小物も企画中だ。バリバリのキャリアウーマンか？と思いきや、5歳になる男の子のお母さんでもある。出産を経験したことで、母親としての視点から、子どもが着やすくて、素材的にも安心で、親子で一緒に楽しめるものを考えるようになった。「独立できたのも家族の理解があってこそ」と吉田さん。協力してくれる家族への感謝が作品にも表れているのか、モチーフには地蔵や動物など、心温まるものも多い。

マルチで、意欲的。いろんなことに取り組んでいるように見えて、その実「Tシャツにしろジーンズにしろ、キャンバスとなるものは違っても絵を描くということに変わりはないんです」。物心つくころから絵が大好きで、「両親曰く、紙さえあれば何か描いてたんだとか（笑）」と。純粋に、「ものづくりが好き」な気持ちはいまも変わらない。作業をはじめると、時間を忘れて没頭してしまうことも珍しくないという。

高校時代、京都に遊びに来て「なんてすごい町なんだろう！」と感動したのは、文化がぎゅっと詰まっている面白さを肌で感じたから。その後、ものをつくっている町に住みたい、という願いは現実のものとなった。偶然にも地場産業に携わっていたり、ものづくりを生業としている人たちに囲まれ、年々強く「次世代に受け継いでいける文化を支えたい」と感じるようになったという。伝統産業を守っていくことはもちろん、それを新しく進化させ、京都という地域性を生かした文化を発信していきたい。「とはいえ、ひとりでは何もできないので、同じように考えている人たちと一緒に実現させたいですね」。

いままで学んできた技術を、知り得た知識を、着物だけでなく様々なものに活用し、異業種とのコラボも視野に入れて、広く世界へと伝える。それは、作家としての己をここまで育ててくれた京都という町に対して、出来ること。すべきこと。――そう決意する彼女は、きっと近い将来、何かを成し遂げてくれるはず。

浮かんだイメージは、コピー用紙の裏など、とにかく手近にあるものに描き留める。それをもとに、長年愛用している筆や刷毛を使って肉付けしていく。こまは「師匠のところから頂いてきたので、年期が入ってます」

出産前に「今までの集大成のつもりで描いた」桜の作品。実際に奈良にある巨木をモデルに、手前に「生まれてくる赤ちゃんをイメージした」若木を配した。初心に返るため、独立を機にアトリエへと運び込んだF50号の大作だ

立ち上げ前の準備期間から企画・制作の面で協力を惜しまない「京倭樂」が展開するブランド「倭樂友禅」。倉敷・児島産のジーンズに京友禅で絵付けしたこのオリジナルシリーズには、吉田さんの作品も多数ある

information

『Y's factory』京都 香櫻美
http://kyoto-kaoby.com/
『京倭樂』
http://www.waraku-yugin.com/
http://www.rakuten.ne.jp/gold/kyo-waraku/